

病防第17号  
令和8年（2026年）7月1日

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

病虫害発生予察特殊報について（送付）  
このことについて、病虫害発生予察特殊報第2号を発表しましたので送付します。

## 特 殊 報

令和8年度（2026年度）病虫害発生予察特殊報第2号  
令和8年（2026年）7月1日  
熊本県病虫害防除所長

- 1 病虫害名 オリーブ立枯病
- 2 学 名 *Ralstonia solanacearum*
- 3 発生作物 オリーブ（モクセイ科）

#### 4 発生確認の経過

令和8年（2026年）2月、県内のオリーブ園1か所で、一部の枝に着生した葉が枯れ始め、その枯葉が着生した枝が萎凋し、後に樹全体が枯死に至る病害の発生が確認された（写真1）。発病樹の枯死枝内部は変色し（写真2）、細菌泥の漏出が認められた。

当県果樹研究所において、枯死枝から分離した細菌を既報のPCR法により検定したところ、*Ralstonia solanacearum* (phylotype I) と同定された。

#### 5 国内の発生状況

本病の発生は、平成30年に香川県で初めて確認され、その後、鹿児島県、宮崎県、広島県、静岡県、三重県、滋賀県から特殊報が発表されている。

#### 6 本病の特徴

##### (1) 発生生態

本病原菌である*Ralstonia solanacearum* に起因する病害は、本県ではナス科植物やショウガの青枯病、タバコ立枯病等が知られている。本件の分離株は、接種試験によりトマトにも病原性がある（萎凋・枯死）ことを確認している。

オリーブにおける感染経路は明らかではないが、一般的に同病原菌は土壌中で生息し、植物の根の傷口から侵入する。その後、道管内で増殖し地上部を萎凋させる。また、収穫やせん定等の管理作業でも発病樹から健全樹に伝染すると考えられる。

##### (2) 病徴

本病原菌に感染した樹は、一部の枝に葉枯れや落葉を生じ、その後、枝が萎れ

樹全体が枯死する。枯死した枝や発病樹の幹を切断すると、内部は木部まで褐色に変色している。

## 7 防除対策

本病に登録のある農薬はない（令和8年6月22日現在）ため、以下の耕種的対策を行う。

- (1) 新規にオリーブを栽培する際は、過去に本病及びびナス科植物の青枯病の発生があった跡地を避け、排水性の良いほ場を選定する。
- (2) 発病樹は伝染源となることから、枯死した樹は速やかに抜根・除去し、残渣をほ場外に持ち出して焼却するなどして適切に処分する。抜根した跡地に再びオリーブを移植または定植しない。
- (3) 発病や感染が疑われる樹にはカラーリボン等で目印をしておき、直接樹体に触れる作業は、健全樹への作業を終えてから最後に行う。せん定等の管理による伝染を防止するため、使用する刃物を70%エタノールまたは200ppm(0.02%)以上の次亜塩素酸ナトリウム水溶液で消毒しながら作業を行う。
- (4) 発生ほ場での作業後には長靴や手袋をよく洗浄する。作業後は同日中に他のほ場に極力出入りしない。

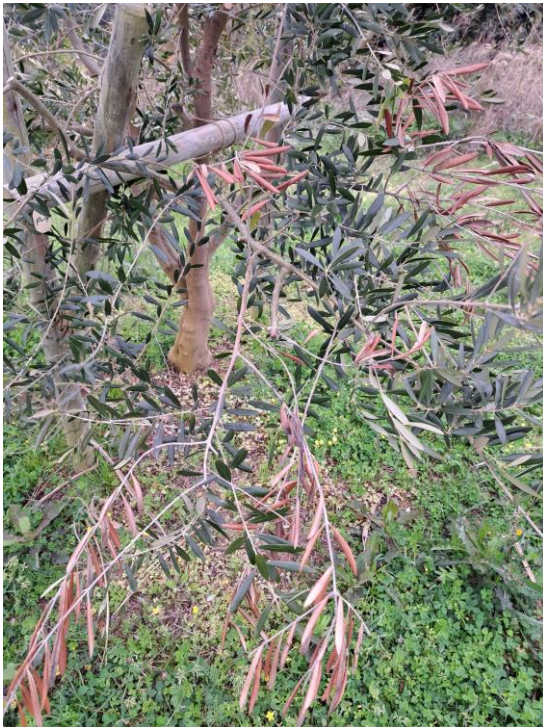


写真1 葉枯れ症状



写真2 枯死枝内部の変色

熊本県病害虫防除所  
(熊本県農業研究センター 生産環境研究所内)  
担当：清永  
TEL 096-248-6490 FAX 096-248-6493